

課題対応に向けた取り組み

環境負荷低減への対応

製品における取り組みの方向性

Hondaは、資材調達から設計、開発、生産、輸送、販売、使用、廃棄段階に至る製品ライフサイクルの各段階で、環境負荷を低減するという基本姿勢を持ち、環境取り組みを進めています。

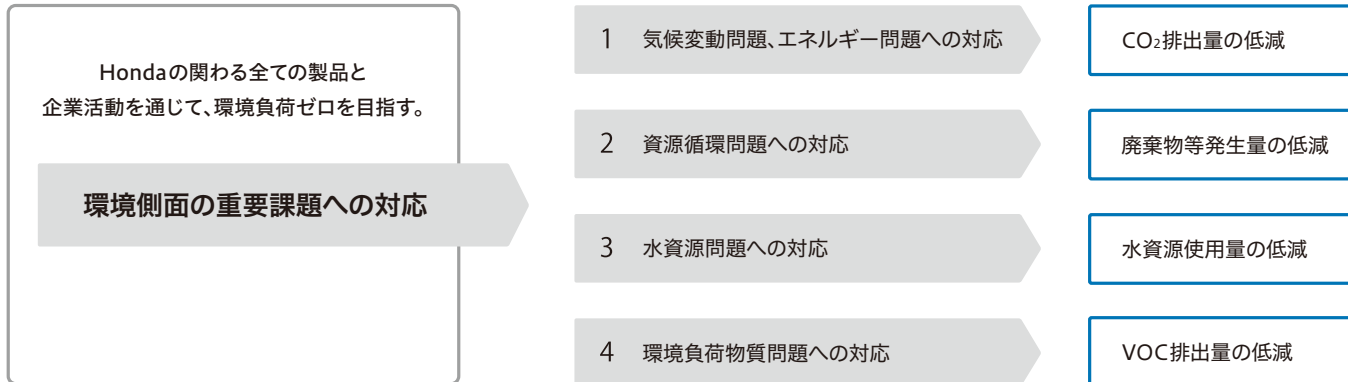
製品に関する取り組みについては、ESG Data Bookをご覧ください。

<https://global.honda.jp/sustainability/report/pdf/2022/Honda-SR-2022-jp-055-078.pdf>

企業活動における環境取り組み計画

Hondaは、2020年10月には、「2050年カーボンニュートラルの実現」をめざすことを、2021年4月には「環境負荷ゼロ」の循環型社会の実現に向けて「2050年にHondaの関わるすべての製品と企業活動を通じて、カーボンニュートラルをめざすこと」を公表しました。この長期的な目標を達成するため、従来掲げていた「Triple ZERO」を超えたより高い取り組みの方向

として、「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」「リソースサーキュレーション」、この3つを1つのコンセプトにまとめた「Triple Action to ZERO」を掲げ、2050年に向けてのロードマップ策定を進めています。



2050年に向けた方向性

Hondaは、創業100年を超える2050年に向けて、「人々が持続的に生活して行く為の『環境負荷ゼロ』の循環型社会の実現」を目標に掲げています。

その具体的な取り組みの方向性を、「Triple Action to ZERO」のコンセプトにまとめました。

※1 VOC(揮発性有機化合物):主に塗料やシンナー中に含まれる有機溶剤に由来する光化学オキシダントの原因となる化学物質